

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際 > エ 活動プログラムの実践

<高等学校> 活動プログラム③トラブル解決のスキル



ペアやグループを意図的に構成して、実践しました！

1 活動プログラムの展開案において、グループでの活動がある場面を確認しました。

【活動プログラム3時目の展開案より】

	<p>【スライド12】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○練習は、動画と同じトラブルの場面の【練習シナリオ】を使います。今日は、Cさんが間に入るポイントの部分まで練習します。 ○3人グループになり、もめている役（Aさん、Bさん）、間に入る役（Cさん）に分かれて練習します。 ○スライドの役割のローテーション表を見てください。3回練習を繰り返して、全ての役割を体験します。役割の交代の仕方は分かりましたか。 ○3人グループで、ア、イ、ウを決めてください。 <p><練習1回目></p> <p>【スライド13】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○役割を確認します。Aさん役の人、手を挙げてください。Bさん役の人、手を挙げてください。Cさん役の人、手を挙げてください。 ○皆立ち立ってください。Cさん役の人がAさん役の人とBさん役の人の間に立ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人グループはあらかじめ編成しておき、グルーピングをスライド等で提示する。 ・役割の交代の仕方をスライドで提示する。
--	---	--

学習活動4
トラブル解決のポイントに気を付けながら練習する

資料1 活動プログラム3時目におけるグループ活動の場面



2 活動プログラム②の実践後に「グループ活動アンケート」(2回目)を実施しました。

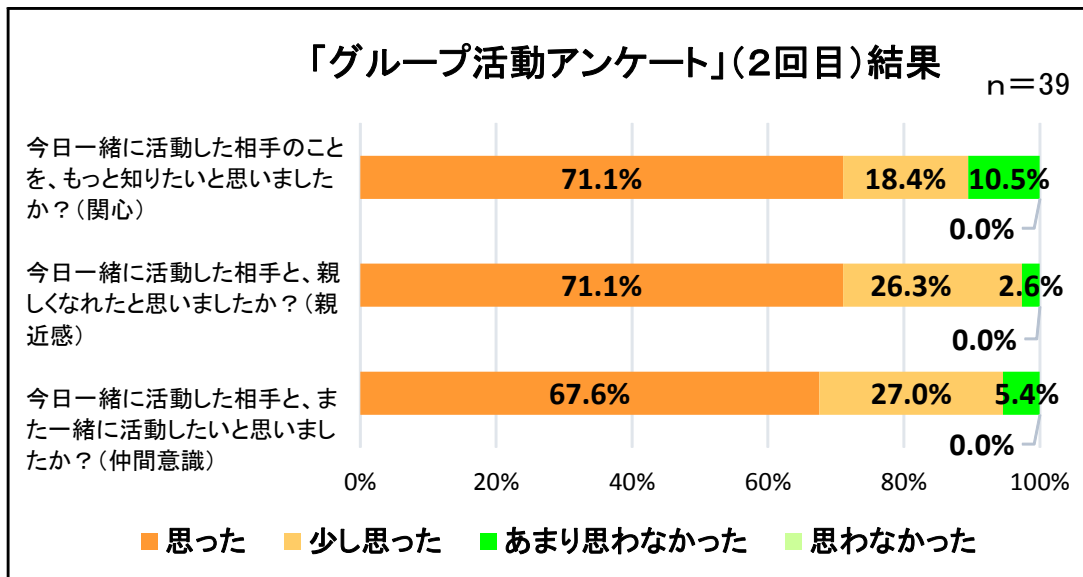


図1 「グループ活動アンケート」(2回目)結果



3 学習のねらい及び「グループ活動アンケート」(2回目)と「トラブルについてのアンケート」の結果から、以下のようなグルーピングのための視点を挙げました。

- 友達のトラブルの場面に関わるロールプレイングの体験を通して、メディエーターとしてのスキルを学ぶため
 - ・ 練習したスキルを実際の場面で使うことができるようにするため、授業で取り扱う部活動におけるトラブルの場面に合わせて、同じ部活動又はタイプが似ている部活動の生徒同士を組む。
- グループでの活動が停滞しないようにするため
 - ・ 友達との関わりが苦手な生徒と、友達に対して穏やかな態度で接するなどの気遣いができる生徒を組む。
 - ・ 授業で取り扱うトラブルの場面と同じトラブルを経験したり、トラブルが継続したりしている生徒同士は組まない。
 - ・ 「グループ活動アンケート」(2回目)において、2時目のペアと異なる友達との活動を希望する生徒が多かったことから、1時目、2時目のペアと異なる生徒同士を組む。
 - ・ 「トラブルについてのアンケート」で「声掛けの意識」が低い生徒同士を組まない。



4 「PIGシート②」を活用して、「グループ活動アンケート」(2回目)と「トラブルについてのアンケート」の結果及び担任の観察を基にして総合的にアセスメントし、グルーピングを行いました。

※資料2は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

【取扱注意】													
PIGシート② (高等学校)		振返 ②	グループ活動 アンケート [実施日 ○/○]			理由などの 特記事項	担任等の観察 [実施日 ○/○]			グルーピング			
No.	氏 名	学習に進んで参加できた	活動した相手をもっと知りたいと思う	活動した相手との距離が縮まったと思う	活動した相手とまた一緒に活動したい		「トラブルについてのアンケート」(声掛けの意識)として「1」が多い <input checked="" type="checkbox"/>	部活動でトラブルの場面があった <input checked="" type="checkbox"/>	相手のことを考えて発言できる (◎か○)	怒りについて知る	トラブル未然防止のスキル	※グルーピングに関しての担任の見取りを記入する (例) 要支援群(→) Q1 アンケート、不登校傾向、○○さんとは×、事前説明が必要、◇◇部に在籍 など	
1	○○ ○○	4	4	4	1				A	A	△△部	A	A
2	○○ ○○	3	3	3	3			○	B	A	△△部	B	B
3	○○ ○○	4	3	3	3				C	B	△△部	C	C
4	○○ ○○	4	3	3	1	✓	他の人としていたい	✓	B	C	△△部	C	C
5	○○ ○○	4	4	4	3				C	C	△△部	A	A
6	○○ ○○	4	3	3	3			◎	A	B	△△部	B	B
7	○○ ○○	4	3	3	3			✓	D	D	△△部	D	D
8	○○ ○○	4	4	3	4				E	E	△△部	A	A
9	○○ ○○	4	3	3	1		他の人としていたい	◎	E	D	△△部	C	C
10	○○ ○○	4	4	3	4				D	E	△△部	B	B

資料2 「PIGシート②」を活用したグルーピングの実際



5 実際の座席は、以下の点に気を付けて配置しました。今回、配慮した生徒は1名です。

※資料3は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

- ・配慮を要する生徒は1時目、2時目のペア活動にスムーズに参加していたが、教師の配慮を気にする様子が見られたため、座席配置を後方に配置した。

○年○組 座席表(○月○日 活動プログラム◎「トラブル解決のスキル」)

★	◎																		

教卓

黒板

電子黒板(70インチ)


【座席表上の記号】

- ◎(気遣いができる生徒)
 - ・穏やかな態度で友達と接することができる
 - ・しっかりしている
- ★(配慮を要する生徒)
 - ・友達との関わりが苦手
 - ・教師の配慮を気にする

資料3 座席配置の実際



6 実際の授業は、以下の通りです。

過程	●配慮の実際	・生徒の反応や教師の気付き
【授業前】	<p>●既存の座席でグループ活動を行うことに支障があったため、座席を3人でのグループ活動がしやすいように変更した。</p>  <p>【座席の様子】</p> <p>●授業当日の朝、担任から生徒に主な学習内容と活動形態(グループ活動)、それに伴った座席配置について伝えた。</p>	<p>・生徒の反応や教師の気付き</p> <p>・座席表を学級全体に対して示したため、座席の変更についてはスムーズに行うことができた。</p>
【授業中】	<p>●グループ活動を円滑に進めるために、グループの机を寄せ合い、ロールプレイングを行う場所を確保した。</p>	<p>・グループ活動において、全体的に活発なやりとりが見られた。</p>



【グループ活動の様子】

・配慮した生徒は、グループの生徒とトラブルのポイントを使って熱心にロールプレイングに取り組んでいた。

【授業後】

●配慮した生徒の様子を観察し、必要に応じて声掛けをした。

・配慮した生徒が、授業後、教師に授業の感想を話し掛ける場面が見られた。

 **実践してみたら、このような生徒の姿が見られました！**

◆授業後の生徒の反応（「グループ活動アンケート」・「振り返りシート」より）
 ※配慮した生徒は1名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

○グループ活動における生徒の友達に対する意識の変化について
 ・「グループ活動アンケート」の質問に対する生徒の回答の結果
 ※配慮した生徒は1名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

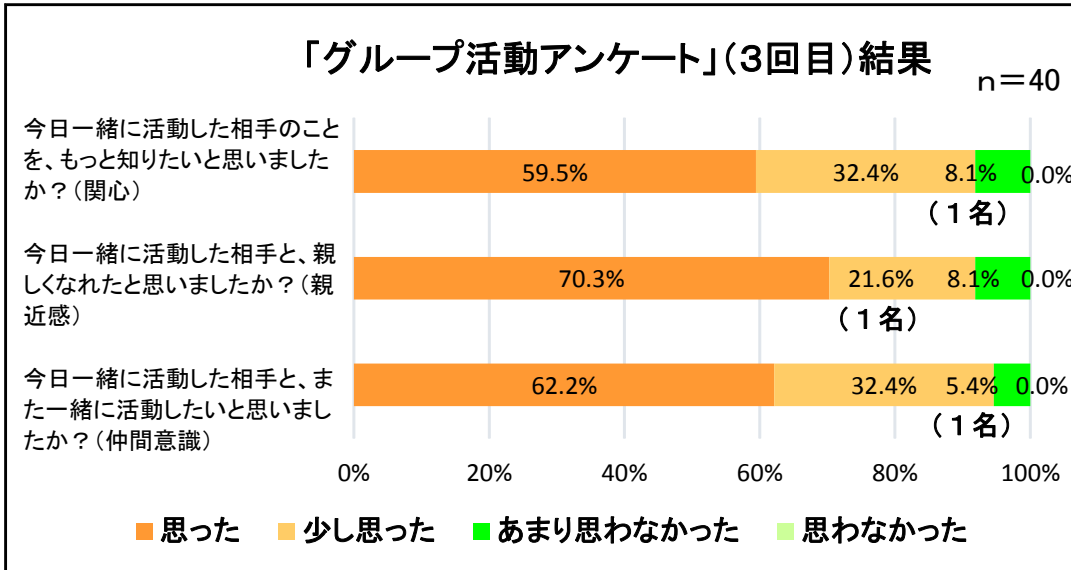


図2 「グループ活動アンケート」(3回目)結果

・ 配慮した生徒の感想



基本的に、他人に対してそこまで興味はありませんが、今日のグループ活動で人には違いがあることを実感することができたので、こういう活動をまた他の人ともやってみたいと思いました。

○グループ活動で取り扱った「トラブル解決のスキル」の学習について

・「振り返りシート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮した生徒は1名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

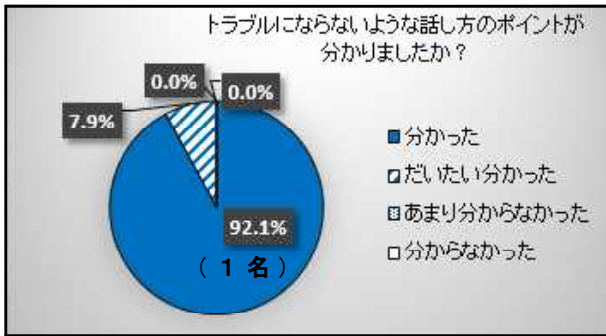


図3 トラブルの解決のポイントの理解について

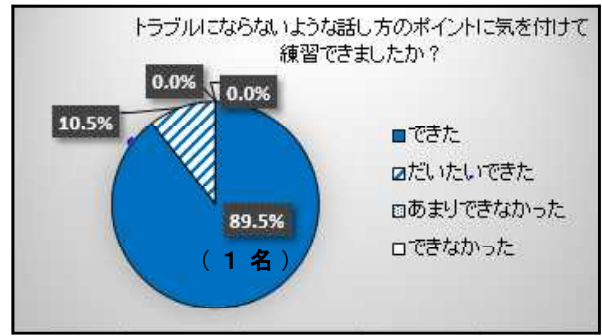


図4 トラブル解決の練習について

・生徒の感想



今まで考えてこなかったトラブルの解決方法について、動画を見たり実際にロールプレイングで演じたりしたことで、よく分かりました。とてもいい体験だったと思います。



皆、トラブルを解決することについて、いろいろな考えをもっているなと思いました。皆の考えを知ることができて良かったです。

○グループ活動を取り入れた学習への参加状況と学習内容に対する活用意欲について

・「振り返りシート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮した生徒は1名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

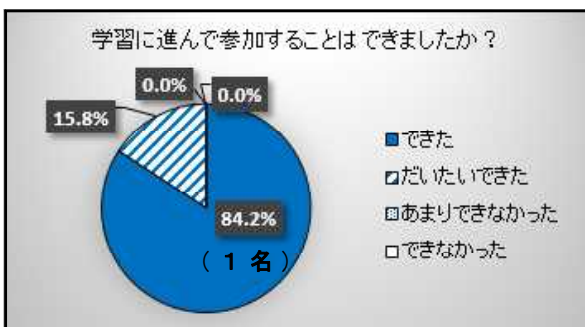


図5 学習への参加状況について

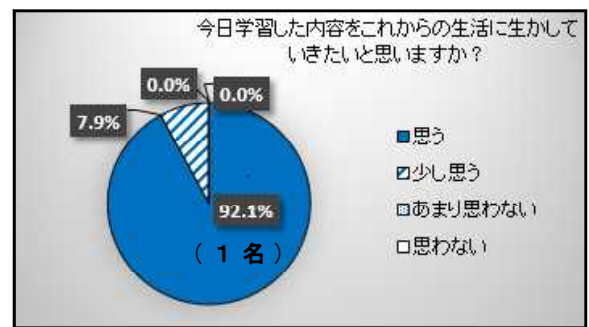


図6 学習内容に対する活用意欲について

・生徒の感想



互いに言い争っているときに間に誰かが入れば、仲直りができるということが分かりました。クラスメートのいろいろな考えが聴けたので、そのことも取り入れていきたいと思います。

今までトラブルが起きているのを見ると、「どうしよう。何かしてあげた方がいいのかな」とは思いながらも、いつも見て見ぬ振りをしていました。でも、今日の授業で、仲裁の仕方が分かったので、それを実践しようと思いました。



◆授業後の教師の感想



今回は、友達同士のトラブルの場面での声の掛け方ということで、大人でも難しいスキルの学習でしたが、生徒はそれぞれの役になりきって、用意されたシナリオで熱心にロールプレイングに取り組んでいました。全ての役を終えた後のグループでのシェアリングでは、今まで習ったことのない内容への驚きとその有用性についての感想が多く聴かれました。私も、補助員として、ロールプレイングに参加しましたが、役を演じることで、その立場にある人の気持ちや自分自身の気持ちの変化等、新鮮な発見が多く、改めてロールプレイングを取り入れた学習の効果を感じることができました。

配慮した生徒の「グループ活動アンケート」には、「ロールプレイングで回数を重ねるごとに気持ちが入り込んでいき、人には違いがあることを実感した。だからこそ、トラブルは起きるので、これからは習ったことを上手く活用していきたい」という記述が見られました。また、授業後には、授業の感想を教師に話し掛ける場面も見られたことから、今回の授業は、友達との関わりが苦手な生徒にとって、授業で学んだことを今後に生かす意欲につなげる機会になったと思います。